



関東支部会報 第3号 (2022年1月発行) 支部長 TN

明けましておめでとうございます。
今年もどうぞよろしく願いいたします。

世界中を震撼させた新型コロナウイルス、2年たった今も次から次へとその型を変え世界中に蔓延しています。終息にはもう少し時間がかかるのではないのでしょうか。サーバス活動も自由に海外旅行ができるようになるまでにはもう少し我慢の時が必要かと思われます。

『花の色は うつりにけりな いたづらに わが身世にふる なかめせしまに』これは小野小町の和歌です。その内、サーバス活動ができるようになって、気力や体力の衰えで……、浦島太郎にならないよう日頃から鍛えておきたいと思っています。

掲載の内容

1. 支部会（11月23日）の報告
2. サーバス体験談 マルタ島への旅 KMさん
3. 秋の懇親会（11月30日）－ 田谷の洞窟を訪ねて TSさん
4. お知らせとお願い
5. 支部連絡先

1. 支部会の報告

Zoom によるOn Line Meetingで開催
11月23日 10時から12時
参加者 12名

議題

- 1) 国際本部が行っているIT関連の設備投資について YH IT委員長
- 2) サーバス体験談 マルタ島への旅 KMさん
- 3) 2022年度の年会費について - T支部長

1) 国際本部が行っているIT関連設備投資について

サーバス活動にはとても便利な検索機能SOL (Servas On Line) が導入され4~5年ほどになるのでしょうか。それまでは海外旅行の際HL CoordinatorからHost Listを頂いて海外のServasに連絡を取っていました。今は海外のHostをSOL上で容易に検索することが出来るようになりました。ところで昨年、日本サーバス本部の説明では日本の国際サーバスへの拠出金分担が2023年度からこれまでに比べ約3倍に膨れ上がると伺いました。その原因が、国際サーバスの年間経費が増えたこと、分担方式がこれまでのLOIの発行数から各国の会員数に変更されたことなどによるとのことです。国際本部の経費増大の主要因が、このSOLなどIT関連設備投資にあります。

そこで、今日は、YIT委員長にこの国際本部が行っているIT設備投資についてお話を伺うことにしました。

国際本部のIT関連設備投資について

日本サーバス IT委員長 YH

私は11月23日の支部会に呼ばれ表題の話をしました。国際本部のDistant Vote (DV) May 2021に対応して今春、本部・支部役員で議論している時に、この内容での質問・意見が出され、その時の回答とその後の状況も含め説明してほしいとの依頼でした。今回、支部会報にもということで改めて寄稿させていただきます。

1. IT投資の内容と変遷

国際本部のIT投資ということでは大きく、全世界向け広報中心の**国際サーバスホームページ (HP)**と、会員データの蓄積管理・照会検索を行う**Servas On Line (SOL)**の2つがあります。近年大きな投資が必要になって来たのは後者の**SOL**で、現在では国際本部の年間予算の約半分となっています。

数年前までの会員情報の管理は、紙冊子のホストリスト (**HL**) を各国サーバスが作成し、一定数を国際本部に送り、それを各国に配布したものを、各国のHLC (コーディネータ) が保管し、必要な会員に貸出してきました。2010年代に、紙の冊子では印刷・運送コストが大きく、発行頻度が一年毎で最新化が遅いということで、各国サーバスはpdf形式の電子版ホストリスト (**E-HL**) に順次移行し、国際本部もそのデータを管理・配布するためのドルフィン (**Dolphin**) システムを運用し始めました。日本サーバスは、E-HLのセキュリティ不安の解消に時間がかかり移行は2015年からと、主要国の中で最後でした。

その後、2010年代半ばになり、ホスト情報をより迅速・簡便に入手したい、情報管理のセキュリティを高めたい、また、若者にも受け入れられるオンラインシステムを提供したい、のニーズから国際本部で**SOL**の構築が進められ、2017年に提供が始まりました。日本は2年前にE-HLのデータが完成していたので、それを**SOL**データに変換することができ、（支部役員と会員の皆さんには確認の手間を取らせましたが）この時は主要国と同時に**SOL**を開始することができました。

2. 多くなったIT投資額とその承認プロセス

2015年頃から開発が始まった**SOL**ですが、当初インドの会社に外注していましたが、なかなかうまく進まず、その後他の会社に頼んだり、各国からのボランティア何人が応援して、要求機能を残しながらやっと2017年に動き出した、と聞いています。その後機能を追加するにしてもプログラムが複雑になっていて難しく、メンテナンス費用も多くかかるということで、改良版の**SOLバージョン2（V2）**の計画が出されました。

韓国で開催された国際会議SICOGA2018において、**SOL**の推進は国際サーバスにとっての最重要事項として、この**SOL V2**の計画は承認され、2019年から3年間に毎年35,000CHF（スイスフラン）の予算も承認されました。年間予算の半分を占める額でしたがあまり議論はなかったようです。

SICOGA2018では、国際本部の収入の減少を止め安定化するために、各国サーバスからの拠出金のルールを、それまでの**LOI**発行数ベースから、メンバー数ベースに改める方向が決定され、計算方式は3年後のSICOGAまでに検討することになりました。そして、それが決まるまでの3年間、各国は2018年と同額を拠出することも決められました。コロナ禍発生前の決定でしたが、このルールのお蔭で国際本部は大きな支障はなくこの2年間も運営できているようです。

新しい拠出金の算定ルールの検討は2020年春から行われました。フランス、スイス、ドイツなどから案が提出されメーリングリスト（ML）で議論され、日本も本部役員の一部がMLに参加し日本の状況も伝えながら議論をフォローして来ました。最終的にはMLで各国の意見を聞いた国際本部の執行部（EXCO）が、会員数（**SOL**のアカウント数）を基本に国連の人間開発指数（HDI: Human Development Index）を係数として加味した算定ルールを取りまとめました。そしてコロナ禍でSICOGA2021が延期されたため、2021年5月にDistant Voteでオンライン投票に掛けられ、多少の反対票はありましたが賛成票多数で可決されました。

3. 日本サーバスでの討議経過

日本サーバスでの**SOL**プロジェクトへの関わりは、前IT委員長のNさん（現 **SOL**管理者）が運用テストや会員データの移行、運用開始後の窓口として携わって来られました。各国にボランティアとしての参加が呼びかけられましたが、開発にはこれまで参加して来ませんでした。

DV May2021の投票を前に、日本サーバスではこの結果が会員の支出金に大きな影響を与える可能性があることから、本部だけの判断ではなく支部長にも検討に参加して貰うことにし、拡大役員会を開いて議論しました。その中でIT投資の額が多過ぎないか、との意見も出されました。開発に直接関わっていないため詳細は不明だが全て外注するのに比べて過大とは言えないこと、国際本部の運営が滞るとサーバス活動ができなくなることからVoteには賛成票を投じることになりました。拠出金は現状の約3倍になりますが会議費をZoom会議などで切り詰めれば何とかかなりそう、という判断もありました。一方**SOL**の開発には、ボランティアを継続的に集められ開発会社をうまくコントロールできないと費用がどんどん増えるリスクがあるので、今後もよく注意して行く必要がある、との意見もありました。（この拡大役員会の議事録は日本サーバスWebページの会員専用のトップページに掲載しています。）

11月の支部会で説明の依頼を受け、その後の**SOL V2**の状況がどうなっているのか気になり調べてみると、2021年に提供予定がまだ連絡がなく、2020年度の会計報告で**SOL**開発費用が予算の半分以下とが判り、どうしてかと国際本部に問い合わせしてみました。するとすぐに返事が来て、開発のピークは終わっており費用は3年間の予算内には納まる見込みだが、提供は1年ほど遅れる予定、との返事でした。また、**SOL V2**のデモが見せられるのでどうか、との呼びかけもありました。日本サーバスとして開発作業に参加するだけの体力はないですが、提供前のテストに参加することで開発状況の実態把握をしながら、開発チームとの連絡を密にして今後協力できるところはやって行きたく考えております。

．．．

2) サーバス体験談 マルタ島への旅 KMさん

< 2. に別途記載 >

3) 2022年度の年会費について 支部長 TN

2020年の春から日本でも新型コロナウイルスの感染拡大で海外旅行が全く出来なくなり、結果としてサーバス活動も停止した状況となりました。2021年も同様な状況が続き活動が出来ないだろうと思われることから、2021年度の年会費については本部への拠出金は継続して行うものの、コロナ禍ということで会員から会費を徴収する或いはしないは、各支部の判断にまかせるということになり、関東支部は、2021年は年会費の徴収はしないことに決めました。

今年11月、本部から2022年度の会費の徴収について各支部の意見を聞きたいとの要請があり、この支部会で話し合いました。その結果、秋になって日本での感染拡大が収まりつつあることや、本部への拠出金を継続して納付する必要があることなどから、2022年度の年会費は徴収した方がいいという出席者全員の意見でした。この旨を11月28日の拡大本部役員会に報告しました。

最終的には、2022年度の年会費について本部への拠出金は継続して各支部から支払うものの、会員からの年会費は各々支部の事情によって徴収額を減額することが出来ることに決まりました。

関東支部としては、支部会の意見を参考に、2022年度の年会費は減額することなく、一般会員は3000円、学生会員は2000円で徴収することにします。



2. マルタ島への旅

KM

2019年の十二月夫と共に地中海のマルタ共和国へ参りました。サーバスの旅とは異なり、急にどこかへ行きたくなり、暖かく、歴史もあり、自然にも恵まれ治安のよいマルタ共和国に急遽決めました。マルタは地中海の要衝の地にあり古来より多くの民族に支配されてきました。紀元前にはフェニキヤ人、ローマ人、アラブ人、中世にはノルマン人、ナポレオンにも征服され、そのあと第二次世界大戦が終わるまで、イギリスに支配されていました。中でも十六世紀オスマントルコのスレイマンがヨーロッパの各地や、地中海の島々を攻撃し連戦連勝を重ねる中、聖ヨハネ騎士団がマルタ島を少人数で最後まで守り抜いたことは、200年あとの、フランスのヴォルテールにも称賛されています。オスマントルコがハンガリーやオーストリアを攻撃した折、その様子を目の当たりにしたモーツァルトやベートヴェンが「トルコマーチ」を作曲したことはあまりにも有名です。1964年イギリスから独立してマルタ共和国なり2004年にEUに加入しました。

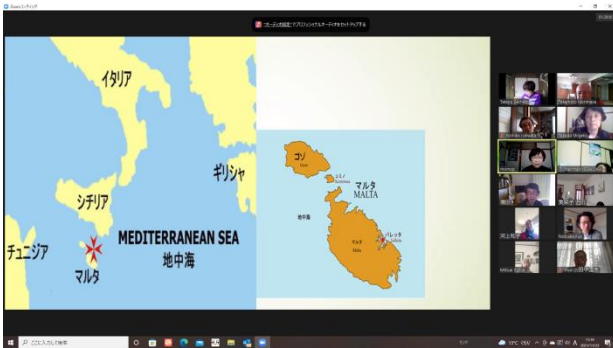


マルタ共和国はマルタ島、ゴゾ島、コミノ島からなる人口40万程の小さな国です。交通手段はバスしかありません。首都Vallettaのバスターミナルから各地に行ける沢山のバスが出ており、我々はその近くに宿をとりました。おりしもクリスマスシーズンで夜もイルミネーションに彩られて楽しい雰囲気でした。勿論クリスマスマーケットも行ってみました。繊細な銀細工がこのあたりの特産でお土産に求めました。英語が公用語で言葉には不自由しませんでした。十二月ですから朝晩はそれなりに寒いですが、昼間は上着がいらないくらいあったかくブルーラグーンで知られるコミノ島では、泳ぐ人もいました。マルタ島は要塞と教会の町で、一般の人々の住まいには必ず玄関のそばに飾り窓があり、キリスト様やマリヤ様に関わる飾りつけがしつらえてあり、人々の信仰深さがしのばれました。

沢山の教会の中でも特に目を見張るのが聖ヨハネ准司教座聖堂の壮麗な内部で数多くの礼拝堂の中でイタリアバロック絵画の巨匠カラバッジョが描いた「ヨハネの斬首」の部屋は必見です。

郊外には6000年前の巨石文明の遺跡が複数在りこの時代の地下墓地も発見されています。マルタ島の西海岸は切り立った断崖が続き、多くの青の洞窟と素晴らしい眺望が楽しめます。謎の古代遺跡と切り立った崖からかアトランテスの一部では？と言う説もありますが、信憑性はありません。サーバス旅行のような現地の方々との交流はあまりありませんでしたが、教会のお祭りの情報とか、余り観光客の行かない穴場とか親切に教えていただきました。一日も早くコロナが収束して、かつてのような草の根の国際交流ができることを祈っています。 2021.12.12.

マルタ島



聖ヨハネ准司教座聖堂



3. 秋の懇親会 地下の神秘空間田谷の洞窟を訪ねて 2021年11月30日

TS



集合 JR大船駅西口 10:00AM



参加者：T夫妻、KM、MN、IY、TS

お天気にも恵まれて、絶好のウォーキング日和になりました。日頃の運動不足解消と、コミュニケーションを繋ぐ思いで、和気あいあいとウォーキングを楽しみました。

常泉寺田谷山は室町初期開創と言われ、修禅道場でした。洞内には行者の手により壁面に数百体の、み仏が刻まれていました。幾度かの地震にも見事に耐えています。

<http://taya-josenji.jp/>



洞窟散策の後、有志で近くの野天湯元・愉快爽快たやの温泉を楽しみました。

<https://www.yukaisoukai.com/tay>

参照【甘味があるフルーティーな味わいのある黒ニンニクの作り方】
<https://cookpad.com/search/> お楽しみください。

4. お知らせとお願い

- ・1月1日現在における関東支部の会員数は昨年より12名減り44名となりました。

- ・2022年（1月～12月）の年会費のお支払いのお願い

一般会員は3,000円、学生会員は2,000円を1月31日までに支部口座にお振込みをお願いします。

5. 支部連絡先

発行者 関東支部長 TN